

# 「教員応募履歴書」記入要領（【記入例】参照）

早稲田大学日本語教育研究センター

「教員応募履歴書」はそのまま印刷して会議の資料として使用しますので、丁寧に扱うとともに、PC等で入力の場合 **添付ファイルで申請してください**。履歴は学歴、職歴の開始と終了を漏れなく記載してください。

「教員応募履歴書」は、以下の要領にてご記入ください。

## （１）年号の表記

年号はすべて西暦で表示願います。

## （２）「氏名」欄

### ① 押印は必要ありません。

### ② 外国人の方の場合の表記方法

- 1) 「氏名」欄は、母国語または英語で姓名を記入し、「フリガナ」欄はカタカナでご記入ください。
- 2) 氏名は姓の欄にファミリーネーム、名の欄にファーストネーム ミドルネームの順に記入してください。ミドルネームを省略する場合は、ピリオド [ . ] を使用してください。

（例）ジョン F. ケネディ

（姓）ケネディ （名）ジョン F.

### ③ 通称名を使用する場合は、『通称名（本名）』で表記してください。

### ④ 英字氏名はパスポートと同じ表記を記入してください。日本人も必ず記入してください。（本学で登録できるのはアルファベットのみで、Á á Â â Ã ã Ä ä など使用できません）

## （３）写真貼付

写真は必要ありません。

## （４）国籍欄

国籍(国名)をご記入ください。

## （５）「学歴」欄

### ① 高等学校の学歴は、最終学歴が大学卒業以上の場合は省略いただいて結構です。

### ② 入学、卒業・修了等の年月日を正確にご記入ください。

早稲田大学の場合、入学は4月1日付で、卒業・修了は、両高等学院が3月31日付、学部は1953年より3月15日付（1969年は、一・二文、教育、理工、社会学は25日付）、大学院修士課程は1960年より3月15日付となっています。

また、学部においては9月15日付の9月卒業、大学院修士課程においては9月15日付の9月修了（1984年以前は10月修了）があります。不明な点がありましたら、該当する学部・大学院の事務所にお尋ねください。

- ③ 学科、専攻、専修名は、正確にご記入ください。
- ④ 大学院の修士課程・前期課程および博士課程・後期課程の記入欄は、学部までとは別に所定の欄を設けてありますので、ご注意ください。（該当の課程の名称を○で囲んでください。）

なお、早稲田大学大学院では、次のように課程の名称が変遷していますので、下記により該当の課程の名称を○で囲んでください。在学中に名称が変わった場合には、修了・退学の時点の名称になります。

#### 早稲田大学大学院課程名称の変遷

戦後の新制度 ～ 1976年3月	修士課程と博士課程
1976年4月 ～ 1985年3月	博士前期課程と博士後期課程
1985年4月 ～ 現在	修士課程と博士後期課程

また、博士課程・博士後期課程で、年度途中で退学届を提出した場合を除き、学位を取得せずに大学を退学した場合は、一般的には3月31日付退学となります。

- ⑤ 博士学位名は、受領が1991年6月までが『〇〇博士』、それ以降は『博士（〇〇）』となります。

#### (6) 「職歴」欄

- ① 他の大学や学校で講師をされている場合は、専任・非常勤の区別を明確にご記入ください。企業・研究所等に勤務されている場合は、その役職名・肩書等を明記願います。
- ② 他の大学・学校・企業等をすでに退職されている場合は、その退職年月日を明記願います。
- ③ 現職の欄には、複数の大学や学校、研究所等に勤務されている場合は、代表的な現職をご記入ください。退職の予定が決まっている場合は、終了（退職）年月日欄に退職予定年月日を明記願います。現職が常勤で本学の常勤に就任される場合は、本学就任時に退職予定かどうかを明記願います。

#### (7) 「専攻分野」欄

自己の研究分野を以下の「【別紙】専攻分野一覧」から選んで、必ずご記入ください。

[http://www.waseda.jp/cjl/dat/recruit/form/major\\_fields.pdf](http://www.waseda.jp/cjl/dat/recruit/form/major_fields.pdf)

#### (8) 「研究分野」欄

詳細にご記入ください。

#### (9) 「教育研究業績」欄

- ① 原則として、研究業績用紙2枚程度に収まる範囲内で、主要な著書・論文等をご記入ください。
- ② 教育研究業績は、以下の順に記入してください。
- 1) 教育活動 (1. 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 2. 作成した教科書、教材、参考書 3. 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 4. その他教育活動上特記すべき事項)
  - 2) 研究活動 (1. 著書 2. 修士論文・博士論文・論文 3. 学会発表 4. 文部科学省科研費/公的資金による研究課題(研究代表者) 5. その他研究活動上特記すべき事項)

3) 学会等および社会における主な活動（学術賞等の受賞状況、特に海外の科学アカデミー等からの国際的学術賞の受賞があればご記入ください。）

各々の業績の書き方でご留意いただきたい点は、次のとおりです。

**著 書：** 共著の場合は（共著）と明記していただき、題名のほかに執筆担当部分のタイトル名と担当頁を何頁～何頁までとご記入ください。ただし、表紙、奥付等に氏名が記載されている場合のみを共著とします。

**論 文：** 査読付きの論文の場合は、（査読付）と明記してください。  
共著の場合は（共著）と明記していただき、執筆担当部分がある場合には何頁～何頁までとご記入ください。また、著者名を論文に記載されている順序で全て記載してください。その際、筆頭著者の場合は（筆頭）と明記してください。

**学会発表：** 「発行又は発表箇所」欄には、発表された学会名等をご記入ください。  
国際学会の場合は（国際学会）と、招待講演の場合は（招待講演）と、基調講演の場合は（基調講演）と、査読付の場合は（査読付）と、それぞれ記載してください。

**文部省科学研究費補助金採択課題：** 研究代表者として採択されたことがあれば、その種類、題目、金額等をご記入ください。

**公的資金による研究課題：** 科研費以外の経済通産省、日本学術振興会などの公的資金による研究を代表者として実施したことがあれば、その種類、題目、金額（総交付額）等をご記入ください。

詳しくは、「教員応募履歴書」記入例をご参照ください。

## (10) その他の必要書類

外国籍の方は、常勤・非常勤に関わらず、在留カード（表面・裏面）のコピーをご提出ください。

以 上

# 早稲田大学教員応募履歴書

No. 1

※年号はすべて西暦でご記入ください

( 2009年1月 日現在)

フリガナ	ワセダ	タロウ	性別	外国人教員の 翻訳者署名
英字氏名	WASEDA	Tarou	男	
氏名	姓 早稲田	名 太郎	・ 女	
生年月日	1963年9月21日	42歳	国籍	日本
現住所	フリガナ シンジュクニシセダ 〒169-0051 新宿区西早稲田1-1-1		TEL	03(3203)4141 携帯TEL 090(0123)4567
e-mail	taro@waseda.jp			

学 歴 [高等学校入学以降を記入し(入学・編入学)(卒業・修了・退学)等を区分してください]			
1995年 4月 1日			入学
1998年 3月 31日		高等学校	卒業・修了・退学
1998年 4月 1日			入学・編入学
2002年 3月 15日	早稲田大学	〇〇学部	卒業・修了・退学
年 月 日			入学・編入学
年 月 日			卒業・修了・退学
年 月 日			入学・編入学
年 月 日			卒業・修了・退学
2002年 4月 1日	修士課程に該当する学歴(新制大学院修士課程・前期課程)		入学・編入学
2004年 3月 15日	早稲田大学大学院日本語教育研究科	日本語教育学専攻	修了・退学
2004年 4月 1日	博士後期課程に該当する学歴(博士課程・後期課程)		入学・編入学
2007年 3月 15日	早稲田大学大学院日本語教育研究科	日本語教育学専攻	修了・退学(満期・中途) ・在学中
博 士 学 位	取得学位名(課程・論文) 博 士 (日本語教育学)	受領大学 早 稲 田 大 学	受領年月日 2007年3月15日

職 歴 [職歴異動の場合は入社・退社、および身分・資格等を記入してください]		
開始(就職)年月日	〇〇〇日本語学校 非常勤講師	終了(退職)年月日
2004年 4月 1日～		～ 2005年 3月 31日
2005年 4月 1日～	△△△大学 △△△学部 非常勤講師	～ 2006年 3月 31日
2007年 4月 1日～	〇△□大学 △△△学部 非常勤講師(現在に至る)	～ 年 月 日
2007年 9月 1日～	国際交流基金 △△△研究員	～ 2008年 3月 31日
2007年 4月 1日～	□□□大学文学部 非常勤講師	～ 2008年 3月 31日
2008年 4月 日～	〇〇〇日本語学校 講師	～ 2008年 3月 31日
年 月 日～		～ 年 月 日
年 月 日～		～ 年 月 日
現 職	〇〇〇日本語学校 講師、 〇△□大学 △△△学部 非常勤講師	現在に至る
2008年 4月 1日～		

専攻分野[別紙より選択]	日本語教育
--------------	-------

研究分野[詳しく記入]	待遇コミュニケーション、第二言語習得
-------------	--------------------

# 教 育 研 究 業 績

[ I 教育活動(1. 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)2. 作成した教科書、教材、参考書 3. 教育方法・教育実践に関する発表、講演等  
4. その他教育活動上特記すべき事項)、 II 研究活動(1. 著書 2. 修士論文・博士論文・論文 3. 学会発表 4. 文部科学省科研費/公的資金による  
研究課題(研究代表者)5. その他研究活動上特記すべき事項)、 III 学会等および社会における主な活動、の順に記入してください]

修士論文・博士論文・ 著書・論文・学会発表・ 科研費採択課題等の別	題 名	発行又は 発表年月	発行又は 発表箇所	掲載誌名等
<b>I 教育活動</b>				
1. 教育内容・方法の工夫	講義「○○○」実施にあたり、現実問題に近い題材により、実践的な教育を達成。	2005. 4 より	○○大学	
	講義「○○」および講義「○○」○○の手法を演習で適用することにより実践的の教育を達成	2006. 8 より	○○大学 大学院	
	講義「○○」および講義「○○」において、オリジナルの教材を作成。	2003. 4 より	○○大学、 ○×大学	
2. 作成した教科書	○○○○○○○○○○	2004. 3	○○書店	
	○○○○○○○○○○ 分担執筆(80-100 頁)	2005. 9	○○○○	
3. 教育方法・教育実践に関する発表	報告書「○○研究集録」	2002. 3	○○県教育委員会	
<b>II 研究活動</b>				
1. 著書	△△△△△△△△△△△△△△△△	1995. 5	○×出版	
(共著)	△△△△△△△△(執筆担当部分のタイトル名 P100~P200 担当)	2000. 1	○△書店	
2. 修士論文	○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○	1988. 3	早稲田大学	
博士論文	○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○	1993. 1	早稲田大学	
論文 (共著) (査読付)	○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○ 早稲田太郎(筆頭)、大隈次郎、小隈花子	1994. 6	○○学会	○○○○誌
(共著)	○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○ P25~P30 担当 大隈次郎(筆頭)、小隈花子、早稲田太郎	1996. 9	○○社	○○○○○
(共著)	○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○ 小隈花子、大隈次郎、早稲田太郎	1998. 7	○○○○	○○○○○
	○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○	2003. 9	○○○○	○○○○○
学会発表 (国際学会)	□□□□□□□□□□□□□□□□□□	1997. 10	第9回電子材料学会	電子材料学会 報告 No. 9
(査読付)	□□□□□□□□□□□□□□□□□□	1998. 10	第12回応物学会	応物学会論文 誌 No. 12
	□□□□□□□□□□□□□□□□□□	2002. 10	△女子大学	
4. 文部科学省科研費	基盤研究B: □□□□□□□□□□□□□□□□	98-2000 年度	□□大学	500 万円
経産省□□研究助成	□□□□□□□□□□□□□□□□□□	00-03 年度	□□□大学	2,000 万円
<b>III 学会等および社会における主な活動</b>				
	○×学会会員	1997. 1 から	○×学会	
	○○学会副会長	98-2000 年度	○○学会	

※該当の無い項目は省略してください。

氏名 \_\_\_\_\_

No.

## 日本語教育 教育実績一覧

以下の実績は主なものでかまいません。

期間	教育機関名	担当科目名	使用教科書・教材等	備考
2003年4月-2005年3月	■■日本語学校（新宿）	初級 日本語	『げんき I』	
2005年4月-2007年3月	●●大学国際教育センター	中級 聴解	TVニュース、ドラマ	
2006年4月-2009年3月	△△大学 日本語センター	初級 日本語	『げんき I』	
2009年4月-現在に至る	☆☆大学 日本語センター	中級 日本語	『みんなの日本語』	

コメント（これまでの経験、得意分野等についてコメントがございましたらご記入ください。）